

視察研修・研修会等報告書

議席番号〔 4 〕 議員名〔 高井範和 〕

1 年 月 日	令和7年4月24日～25日（日数 1泊2日）
2 場 所	滋賀県：全国市町村国際文化研修所
3 視察・研修事項	防災と議員の役割
4 面 接 者	
5 視察研修、研修会の成果	○過去の災害の教訓を活かすために（酒井明子教授） 外部支援との連携をイメージ・構築しておくとい （救護・民間ヘリ・ドローン・・・） 復興は地域コミュニティによるまちづくりが重要 復興のみならず、発災直後の活動にも地域コミュニティが有効であり、 平時から地域コミュニティを構築・活用する必要性を感じた 個別避難計画は地域づくりになる サテライトボラセンも必要・有効になる ○平時の防災と議員の役割（鍵屋 一教授） 現場の情報を上に上げる 近所付き合い（コミュニティ）が減っている 地区防災訓練と個別訓練・個別避難計画 率先避難が重要 仮設住宅の用地はあるのか？ ○令和6年能登半島における対応と取り組み（能登町議長 金七祐太郎） 地元消防団幹部であり、議長である金七氏の体験談は想像を絶した 判断・指示の難しさ・重みを感じた（救助作業か津波からの避難か） 日頃の訓練が大事である→形式的でない意味のある訓練 防災より減災、食糧は3日分のローリングストックをもっとPR必要 ○災害時、復旧・復興期の議員の役割（鍵屋 一教授） 住民の命と尊厳を守る→市当局と協働し国・県・関係機関に働きかけ 応急対応・発災後は執行機関の邪魔をしない 災害時に議員としては情報収集と提供、地域支援活動 議会は復興時にまちの未来形成→平時から政策形成能力向上 その他に執行機関の代わりに視察受け入れ、政治力を活かした要望活動

視察研修・研修会等報告書

議席番号〔 4 〕 議員名〔 高井範和 〕

1 年 月 日	令和7年5月7日～9日（日数 2泊3日）
2 場 所	滋賀県：全国市町村国際文化研修所
3 視察・研修事項	新人議員のための地方自治の基本
4 面 接 者	
5 視察研修、研修会の成果	○地方自治制度の基本（野田 遊教授） 全体的に浅く共感は少なかった 税金はみんなのもの→サービスは受給主体が同一 税金の使い方を民主的に決め、効率的に使用する必要がある 政策評価の種類を事前に決める。当市には欠けていると感じた 追跡しPDCAを回し政策の充実を図る 広報は対話が大事。否定的情報が強い。 広報の効果は継続しないので継続が必要 ○地方議会制度（篠田光洋副部長） もう少し聞きたかったが時間が少なく、聞き取りにくく残念だった 議員・議会は多様な民意を集約し広い見地から個々の住民の利害や 立場の違いを包摂する地域社会の在り方を議論する 議会基本条例とは議会の使命・役割を未来につなげるための 議会内議論の触媒、議会外とのコミュニケーション ○地方議会と自治体財政（金崎健太郎教授） 聞きやすくわかりやすい講義であった 地方交付税と特別交付税、臨時財政対策債 投資的経費としての公共事業には景気回復の効果はない 自治体はお金の使い方を決めることが大事 仕事（行政サービス）の中味が大事 予算と決算では予算が大事（民間とは逆） 決算は仕事をしたかの表れ。その事業の効果はあったか 金額ではわからないものもある ○条例と政策の審査・立案（吉田利宏氏） わかりやすく資料も見やすかった 政策立案は問題点を探る調査→やれる範囲でくふう、予算対応 条例目的規定は手段・目的・究極目的で表現される 問題、目的を明確にし、他自治体のまねでは意味がない

視察研修・研修会等報告書

議席番号〔 4 〕 議員名〔 高井範和 〕

1 年 月 日	令和7年5月19日～20日（日数 1泊2日）
2 場 所	滋賀県：全国市町村国際文化研修所
3 視察・研修事項	自治体決算の基本と実践
4 面 接 者	
5 視察研修、研修会の成果	○自治体決算の意義と審査のポイント（金崎健太郎教授） 原則 今の歳入を今の人で考えて今の人のために使う 民間企業との違いを認識し、考え方の切り替えが必要 決算書の一つの項目だけで判断は難しいと感じた 下呂市の令和5年度決算状況から 単年度収支 前年度約1億のプラスから約3億4千万のマイナス 単純に支出が増えたではなく、年度末時点での貯金残高であり、 計画的なものであれば問題ではない。 その他、財政力指数は平均0.5に対して0.33 実質収支比率は前年度から下がっているが平均より高い 将来負担比率は前年度より大きく改善しているが平均より高い など基準値と比べると疑問を感じるが一つの指標だけでは評価は 出来ず、全体と将来の構想をみる必要がある。 ○行政評価を活用した決算審査（小西 敦名誉フェロー） 藤枝市の行政評価のしくみを学んだ 下呂市の予算決算委員会の活動がさらに進化し、しくみが構築されて いると感じた 年度的には前年度決算から提言し、今年度の事業のチェック、そして 次年度の予算への反映と3年にまたがることで、頭が混乱し整理が 必要である。 しかし、藤枝市の事業評価・決算審査用調書を見ると、この3年の 流れ・関係が分かりやすく当年度の事業のチェックもやりやすいと 感じた。可児市でも同様の書式があったように思うが、行政側も 便利になると感じた。 事業も市民にとってより良いものにするため、税金を効果的に使用する ため、継続的に改善が必要であると感じた。 そのためのしくみがいると感じた。